

令和5年度 自己評価書

学校名	和歌山市立四箇郷小学校
校長氏名	石神 和弘
作成日	令和6年1月19日

1 教育目標

心身ともにたくましく、豊かな人間性を身につけ、自ら学ぶ子供を育てる

2 本年度の取組についての評価

	開かれた学校	豊かな心	確かな学力	健やかな体と安全の確保
指標	学校評価アンケート項目「学校は、学校の教育活動や子供の様子を保護者にわかりやすく伝えている」において、『思う方』の回答が75%を超える。	・図書室への総来室者数⇒前年度を維持 ・保護者アンケートで学校教育・生活でのルールやマナー、モラルに関する設問にて、前年度より「わからない」という回答を減らす。	県学習到達度調査の結果が県の平均を上回る。	学校評価アンケート項目「学校は、子供の安全確保・健康管理のための取組を十分行っている」において『思う方』の回答が85%を超える。
重点目標【P】	◎学校だより・ホームページの発行・更新を通して、学校の情報を発信していく。 ◎地域の方々との交流を計画的・積極的に進める。	◎図書館教育の推進を継続する。 ◎道徳教育を計画的に進める。 ◎豊かな体験活動の充実を図る。	◎子供たちの話し合い活動を重視した授業改善に努める。 ◎基礎学力の定着を目指す。 ◎6年生において教科担任制を導入する。 ◎算数の習熟度別少人数学習を行う。	◎児童の安全確保のために、感染症及び熱中症への対策を十分に講じつつ、これまでの取組を計画的に行う。 ◎定期的な避難訓練に加え、集中豪雨時の危険個所を把握できるようにする。 ◎体力の向上を目指す。
取組の状況【D】	◎校長の思いや願い、学校の方針や考えを学校だよりやホームページ、地域の新聞に載せた。 ◎学校開放月間及び日曜参観を行った。 ◎運動会や授業参観で保護者のボランティア活動を実施した。 ◎家庭科でミンの指導補助として地域の方々を招待した。(地域先達) ◎保護者主催の夏祭りに積極的に参加した。	◎保護者のボランティア活動を継続した。学校司書の配置により、蔵書の整理を進めた。 ◎道徳学習を計画的に進め、授業の質を高めようとした。 ◎春・秋の遠足や修学旅行の他に森林学習など、体験活動を増やそうとした。	◎3年連続で国語科の研究発表を行った。一人一授業の研究授業を行った。 ◎放課後フォローアップを3年生まで拡大した。基礎学タイムで取り組む内容を校内で統一した。 ◎5、6年生算数の習熟度別少人数学習を継続した。	◎夏季期間のリュック登校を可能とした。ミストシャワーを積極的に活用した。 ◎年に3回の避難訓練を実施した。月に1回の校内安全点検を実施した。 ◎「みんな遊び」をクラス単位で実施した。
取組の成果と課題(評価結果【C】)	・学校評価アンケート項目「学校は、学校の教育活動や子供の様子を保護者にわかりやすく伝えている」において、『思う方』の回答が今年度81%で目標の75%を超えた。 ・毎月初めと行事ごとに学校ホームページを更新したことでアクセス数が増えた。 ・コロナ感染が5類に移行されたことを受け、地域との交流も従来の形に戻っていった。	・学校司書の配置により、図書室の蔵書の整理が進み、新しく購入した図書も貸出可能となった。 ・まだ一部の教員だけであるが、道徳の公開授業を行い、子供たちの話し合いを中心に据えた学習についての研修を行うことが出来た。 ・お米や野菜作り、森林学習、漆器の蒔絵体験など、体験活動を増やしていくことが出来た。 ・自主的な子供達の活動として、朝のあいさつ運動を継続できた。	・県学習到達度調査では、県の平均から4年生国語-7、算数-1、5年生国語-5、算数-5、理科-15という結果であった。どの教科も記述式の問題に課題がみられる。 ・教科等別研修会では3学年で発表を行い、授業力を向上させることが出来た。中でも新任教員の成長が大きな成果と言える。 ・算数の習熟度別少人数学習は児童にもすっかり定着し、単元ごとに自らがコース選択できるようになり、意欲も向上している。	・学校評価アンケート項目「学校は、子供の安全確保・健康管理のための取組を十分行っている」において『思う方』の回答82%(+1%)で、85%を超えられなかった。 ・6月2日のゲリラ豪雨の際は、事前の対策をとっていたが、雨の降り始めや水位の上昇が想定以上だったため、学校が陸の孤島となり保護者に大きな不安を与えてしまう結果となった。
改善方法【A】	・学校ホームページの更新頻度を上げ、一層の情報発信を心掛けていく。 ・緊急時には積極的にぐるりんメールを活用していく。 ・運動会や卒業生を送る集会など、地域の方々を積極的に招待する。 ・地域だけでなく、保護者主催の夏祭りにも積極的に参加していく。	・読書活動を一層推進するため、お勧めの図書を紹介する活動を各クラスで取り組むようにする。 ・県や市立図書館からの団体貸出を継続し、本に触れる機会を増やす。 ・引き続き、保護者対象の講座(子育て、情報モラル等)を開く。 ・道徳の公開授業の機会を増やし、研修を深めていく。 ・引き続き、保護者対象の講座(子育て、情報モラル等)を開く。	・記述式問題に課題がみられるため、読書量を増やすことや、作文のような書く機会を意識的に増やしていく。 ・国語科の授業研究を継続し、教科等別研修会に向け、教員の指導力向上を目指す。 ・算数の習熟度別少人数学習を継続し、学習意欲と基礎学力の向上を目指す。 ・デジタルドリルを採用し、ICTの活用を進める。	・熱中症対策として、これまでのリュックでの登校の許可、ミストシャワーや警戒アラートの積極活用に加え、子供の水道水へ水を補充する手立てを実施すること。 ・増水時の避難について、保護者や地域との協議をもち、共通理解を深めること。

3 その他の課題

<ul style="list-style-type: none"> ・校務の効率化を進めるため、保護者からの欠席連絡をメールでできるようにすること。 ・児童のICT活用を一層進めるため、計算や漢字のドリルをタブレット端末でもできるようにすること。 ・土曜日の子どもセンター事業を活性化させること。
